

会議要旨	
会議名	令和6年度第2回大津町中小企業・小規模企業活性化会議
開催日時	令和7年2月26日（水）14時00分～16時00分
場所	大津町役場 全員協議会室
出席委員	足立裕介会長・松永幸久副会長・松島嘉浩委員・山下和貴委員・高木信委員・清原さおり委員・狭間直美委員・永友義孝委員・藤本聖二委員
欠席委員	本郷誠委員・川添英男委員・白石浩範委員
出席者	【町】西光都市計画課長 【事務局】坂本課長・井上主査（記）
議題	1 開会 2 会長挨拶 3 議題 (1) 令和6年度事業の実施状況及び7年度の取組について ① 方向性1 経営基盤の安定・強化 ② 方向性2 創業・企業支援の促進 ③ 方向性3 人材育成・確保 (2) その他 4 その他 5 閉会

#### ■議題

(1) 本町の経済発展に向けた今後の取組、中小企業振興施策等について  
事務局より説明【資料①～⑧】

(会長)

ただいま説明がありました今後の取組、中小企業振興施策等について、ご質問などありましたらお願いします。

(委員)

冒頭で説明はあったが、第1回の会議で7月と11月に会議を行うことを前提していた。本来であれば、予算前に提言がある予定でスケジュールを立てていたと思うが、今回それが出来ていない。説明だと会議での内容を受けて、報告書（提言）を作り、町長に対して報告となっている。大津町は、現在骨格予算のみで肉付け予算を6月補正で行うため、新規の事業なら入れ込めるが、既存の取組の拡充を行うことは難しい。

今回の会議は、大津町の6年度の実施結果と7年度実施予定の取組についての報告であり、審議はないため、それに伴う意見と新たに取り組みについて提案を求める会議という認識で構わないか。

(事務局)

はい。説明をさせていただいた事業についての意見や新たな取り組みへの意見をお願いします。

(委員)

夜市等で多文化共生のブースが出店して、大津町の楽しい町づくりに取り組んでいることがわかり、同時に台湾フェア等の海外の方に向けたイベントに取り組むことで活性化していくのではないかと感じた。

これからも様々なイベントを行うと、町民の方も喜ばれ、その活動の中で海外の人とのコミュニケーションを取り入れて、大津町全体の方向性付けとして違った見方を見つけることも出来るのではないかと感じた。

(事務局)

多文化については、メニュー等の翻訳として飲食店や宿泊業者、土産店等を対象とした多言語化事業補助金を実施していますが、委員からの意見のようにソフト面で対応できる支援として例えばイベントの中に多文化の色を入れていくなど、関係団体と協議しながら進めていければと思います。

(委員長)

委員の意見の通り、地域の方々も恐らく多文化について知らないことがまだまだあると思うので、台湾の方を招き、それを巻き込みながら、イベントをしていけたら良くなっていくと思う。

(委員)

イベントの実施について、PTAとしても地蔵祭り等に以前より参加をしているところだが、夜市の場所がコロナ以降の来場人数がかなり多くなっており、特に小中学生や高校生がかなりの人数いたことを記憶している。そのため、混雑への安全対策として警備員を配置してもらえないか。

PTAや学校からも、夜市での混雑の話が出ており、保護者会からも人を出さないといけないのではないかと話が出ている。子どもの数が多く、安全面に懸念があることから意見させていただきたい。

(事務局)

3月15日開催の夜市については、3月4日に第2回実行委員会がありますのでこのことについて話をします。

(委員)

ここ1~2年で大津町の経済が大きく変化しており、一般の方々も予想がつかない状態である。熊本市が先行して宿泊税を導入しているが、それでも様々な宿泊業者が参入してきている。そのときに、需要のバランスをどこに求めるのか課題である。

ホテル関係の業種が多く入ってくるならば、宿泊者に対するサービスを考える必要がある。例えば、飲食等での中小企業活性化にも関わるサービスがそれになるかと思われるが、そのことについて、どこまでの情報が入っていくのか、また、情報を共有

させていくのか。今後の町の課題について考えながら作り上げていく必要があると感じる。

大津町でも宿泊税の導入等、専門の税収が見込めるのであれば、その活用方法について、しっかりとひも解いていくようにやっていく必要がある。

町目線だと旅行者が増えることで、町全体の交流人口が増えることで入る税収について、交通アクセスの問題の解決に注目されると思うが、実際に大津町を訪れる人たちにとって大津町の魅力となるものを作り上げていかなければならないと思う。

せっかくの会議の場であるので、令和7年度に向かっては、宿泊者が増える中で、どうやってうまく町の発展に引き出していけるかについて、考えていければと感じた。

(会長)

町として中長期的な経営計画の将来像はありますか。

(事務局)

お話のあった宿泊税関係については、町長も宿泊税導入について話をされていますので、今後議会等への説明を行いながら、進めていく流れとなります。

また、宿泊税の内部検討の中では、観光的な部分についても話は出ていて、商業と観光それぞれの分野で検討委員が選ばれると考えており、委員会により今後進めていくこととなります。

後ほど都市計画課から簡単にではありますが、駅周辺の町づくり構想等について、説明をさせていただければと思います。

町の状況については、確かに読みづらい所があります。また、冒頭でお話のあった人手不足についても話はあっておりますが、現状それぞれの事業者の方々が頑張っておられており、町中においては、土地や人件費の高騰により、商売を閉めなければならないという話は今のところございません。そういった中でTSMCの第2工場の建設が3月予定から10月に変更されたことによって人の流れが変わってくると思いますので、そこに注視したいと考えます。

交流人口増加に係る観光分野のイベントについて、夜市だけではなく、2月24日に開催されました菊池地域推進協議会主催の台熊友好祭等にも出店し、町を知ってもらえるよう取り組んでおります。中長期的な計画を立てているというより、その都度臨機応変な対応をしている形です。

(委員)

宿泊税の話について、ここ2年間内部検討を重ねており、内容の整理は出来てきたので、今年の4月から事業者を含めて、外部検討委員会に入ろうと思っている。

先ほど、山下委員が発言されたように、宿泊者や町に訪れた人によどのようなメリットを生み出していけるのかがポイントとなっており、行政がただ単に税収を増やすことだけではなく、その税収の運用方法について、外部検討委員会を開いて1、2年で

例えば、交通インフラとしての道路整備や観光整備をしていくのか等について様々な分野の関係者の方々の意見を聞きながら進めていくことを補足として説明させていただく。

また、町づくりについて、後ほど都市計画課からとあったが、「都市計画マスタープラン」という町づくりのビジョンでどのようなゾーン分けをしていくのかについて現在作成しているが、他委員の方からの以前から指摘のあるように、将来的なことについて細かいビジョンまで見えてこないところがある。まずは、大きなビジョンの中で、南部北部中部といったそれぞれの地域性も加味しながら、どのようなものが必要なのかについて、ゾーン分けを都市計画マスタープランの中で現在行なっている。

その中で、土地利用等の規制があり、合志市や菊陽町の町づくりと大津町の町づくりの考え方について、土地利用の規制が違っており、都市計画の中でも、合志市や菊陽町の場合は市街化調整区域が入っているため、優良農地が抑え込まれているが、大津町の場合は、市街化調整区域がないため、いろいろな所の開発が出来る。これまでは、そこがメリットとして開発が出来てきた。

そこから、今までの土地利用と比較しながら今後の土地利用について、都市マスタープラン等で色分けをしていくことになる。土地利用について、来年までに作ることを検討しているので、皆さんと議論を交わしながら進めていきたい。

(委員)

今の件について、マスタープランはもちろん、菊陽町のような足を運ぶスポットについて、大津町としても、急いで道路や公園を開発する必要はないと思うが、近隣市町と共存していこうと思えば、情報の共有化が必要になってくる。

情報の共有化というのは、先ほどの話のあったように、来る人たちが、どうして来るのか。また、どういう人たちを呼び込みたいかについて、ある程度見えていないと中小企業活性化といっても何をさせたいのかがわからない。

ただ闇雲に宿泊施設を増やしていいものでもないと思う。大津町でも20数年前には、ホテルがいくつも建設されていたことがあったが、現在も同じような状態になっており、後々無理をするようになっていくこともあると思う。だからといって規制することもできないだろうが、なんでも受け入れるというのも違うと思う。

(委員)

今回、県北広域本部から来られてもいるが、大津町、菊陽町だけで考えるのではなく、菊池地域全体が活性化していくことが、県全体の浮揚に繋がるとよく言われている。その中で大津町が地域の中でどのような役割を担っていくのかについてしっかりと考えていく必要がある。

それぞれの菊池地域の中でも大津町の役割、合志市の役割、菊池市の役割、菊陽町の役割、あるいは阿蘇の役割といろいろ違うと思う。その中で、今どういう環境にあるのかという中で、まち作りをどうかみ合わせていくのかというところは、行政が都市

マスタープランを作り、振興総合計画という今後8年間の町のバイブルのようなものを作って行くので、それを乗せていく必要がある。

(委員)

同じようなやり方でできるかというと思うだろうが、アクセスがよくなるときに大津町らしさが出てくると思う。それを早く共有化していきたい。

(委員)

今すぐでなく、例えば10年後に空港アクセスはできます。あるいは中九州高規格も繋がりますってなったときに、今何をすべきかの話が必要と思う。

(委員)

そのとおり。その議論をしなくてはならない。

(委員)

それぞれのところでは話しているかもしれないがあまり知られていない。

(委員)

なかなか情報が伝わらないという意見もいくつか出ているので、きちんと積み上げていきたいと思う。

(委員)

それぞれ菊池地域で特徴のあるまち作りをそれぞれの首長のもとで目指してやっている。しかし、それが市民町民に理解してもらえるようにやっていかないといけないと思う。

知らない人が多くいるため、情報発信をしていくことが大事。例えば地下水について不安に思われる人も大勢いるが、そこは大丈夫だとしっかりと説明しても地下水の枯渇があると言われる。そこで、県では、地下水をリアルタイム見れるようにしたというように情報発信は大切。

今、大津町も説明があったような未来像を描いているので、それをゾーニング(区域分け)して、それを町民にも理解してもらいながら、みんなの進んでいく方向性を合わせていかなければならないと思う。

(委員)

市街化調整に向かって後々策定していく形になると思うが、それまでに大津町として、まだ策定されていないうちに、完璧ではなくてもある程度見える形にしていければと思う。

(委員)

昨年、TSMCの方から、最低でも6か所欲しいと伺った。それならば、菊陽町の工場地帯は、まだ完成形に至っていないことになる。

その中で、活性化について話をするとき、ある程度完成図を考えながら、町づくりに必要な施設を考えていくことになる。しかし、今後どれだけ工場ができていくかわからない、サイエンスパークの構想をそれぞれ想像している中で、町づくりの話を

したところで、実際足りていなかったという話になりかねない。

半導体関連企業の方からの発言となるが、第1工場だけなら台湾からの輸入でこと足りるが、第2工場も操業しているときは、日本の企業に部品供給のお願いをしなければならぬらしい。しかし、会社の規模が違いすぎるため、地元でそれだけの量を供給できる企業がない。

その中でこれから町づくり及び、工場づくりをしていくために、西側に複数の倉庫が出来てきているが、あれだけでは全然足りないため、更に作っていかねばならない。大規模な倉庫をあと10基以上持ってこなければ全然足りなくなったときに、大津町には土地がないため、どうするのかを考える必要がある。今、菊陽町、大津町、合志市、菊池市、阿蘇市のような周辺市町全体でサイエンスパークについて考えていかないといけない。大津町だけの問題として考えるには、規模が大きすぎる。大津町だけでは現実的に難しいため、町外へと開発は広がっていくのではないかと思う。

また、企業からの発言となるが、台湾のサイエンスパーク関係には補助金がどんどん出ているが、既存の企業に対する補助金はあまりないとも聞く。このことについて、県、国、町が、サイエンスパークを守ろうと推進しているのか、今の既存の企業を守ろうとしているのかが分からないため、人材確保のための活動が難しいと企業が感じている。

翔陽高校の話となるが、生徒の家庭内も複雑化している。コロナ禍以降、親がまともに働けていないため、きちんとした生活ができていない家庭があるようだ。何故、親は、働く場所がこれだけあるのに働かないのか分からないが、生徒のマインド作りに影響が出ることを考えた時、改めて生きづらい世の中を、町としてどのように改善していき、住みやすい町づくりではなく生きやすい町づくりを考えていくことも、活性化に繋がるのではないかと思う。

(会長)

働きたいけど働けないということか。

(委員)

働く場所がないのか、もう働く気力がないのかはわからない。コロナ禍のときに様々なことを縮小しないとイケない中で、今まで一生懸命やってきたがもう営業できないという話も聞く。本人は努力していたが、会社の都合で働けなくなったという人もいた。

企業にも様々な問題があって、自分たちでは予測のつかないところから大きな波が来て、それにのまれていく世の中で、自分がしたいと思ってもそれができない中で、自分の気持ちを強く持つため、翔陽高校生にも心を整理する道徳等の授業を再開できればと思い提言もしている。

これだけ何不自由なく生活できる環境にも関わらず、肝心である人間の心が付いてきてないが故に、病になってしまったことに対して、町としてどうバックアップして

いくか。そのような点で、先ほど話のあった祭り等があるならば、気分も晴れて、明日への活力になるのではないかと思う。

(会長)

先ほどの話について、事務局からの説明では、特に賃料について、大きな影響が確認できていないとのことだったが、理論的に考えると土地の値段の上昇により、固定資産税関係も伴い、賃料が上がるのではないかと思う。その部分のケアについて何かしていることはあるか。

(事務局)

今のところ、賃料が上がっているとの話は聞きますが、それが原因で商売がなり立たないとの情報を聞くことはありません。行政としてうまく情報収集ができていないだけで、実際は自転車操業的で何とか乗り切ろうとされている可能性も鑑み、改めて情報収集の必要性について考えているところです。

(委員)

今、必死で耐えている人が賃料の値上げが悪化したときに、耐えられなくなり、気づいたら地元の人がいなくなることが最悪のケースなので、対策について事前に考えていく必要がある。

(委員)

今まで、町から様々な補助金がそれぞれの対象として出ており、それに国県の補助金、そして個人の自己資金という形で、事業が成り立っている。先ほどの創業関係の補助金事業について、今年度の取り組みの成果と新年度の予定を出していたが、補助金の運用の要綱関係も見直ししながら、使い勝手がいいようにしていくべきである。

補助金であるため制約はあると思うが、運用方法について見直しが必要ではないかと考える。

先ほど話があったが、大津町は、二面性があり、地域ごとに特色が異なることによって、今まで良い面もあったが、現在は様々な企業が町に虫食い状態で入ってきており、管理していくのが大変であると思う。それこそ、町が制約をかけでもしない限り難しいと思う。

ただ、県でも以前説明があったが、これから先は監視区域（地価の急激な上昇またはそのおそれがあり、これによって適正かつ合理的な土地利用の確保が困難となるおそれがあると認められる区域として、都道府県知事または政令指定都市の長が指定した区域）をある程度指定していかなければ、土地の価格が天井知らずになっていき、企業が入ってきたくてもこれなくなる。現在、土地の値段が高騰しており、マスコミ等で大津町の土地の上昇率が他と比べて30倍等あるとの情報が出ている。実際、台湾大手の業者やその関係者から話を聞くと、日本（熊本）に進出するんだったら国がバックアップしてくれるといい、TSMCの進出を国策と言っている。国策というならもっと県、町とも連携しながら、国に様々な面でやっていただきたいと思う。

今、台湾の方たちが大津町、菊陽町、合志市に進出の際に土地を買うのにお金に糸目をつけていないため、懸念している状態である。

台湾の方たちに言わせると台湾の新竹市が坪単価450万円程であり、10年の間にこの地域がその金額になりますと言っ、この土地に投資をし始めている訳ですから、その辺も含めて私達はもう少し危機感を感じてやっていかなければならない。いろんな業種にプラスの波及効果ならいいが、マイナスの波及効果が出てくるのが心配。

商工会からの意見としては、事業承継関係をきちんとしていかなければならない。県の方でも様々な事業承継関係の事業をされており、商工会では指導において、事業承継に特化した職員を商工会に置いて、事業承継に対して熊本県下の事業所経営環境も多分進んでいる。

しかし、課題として、黒字が出ていても後継者がいない。要するに継げる家族がいな、知り合いに後継者候補もいない。

過疎地域に行けば、ガソリンスタンドがなくなると地域がすごく困るため事業承継でつないでいくというように事業所に対して様々な面でサポートをやっていかなければならない。

大津町、菊陽町、合志市の場合は、過疎地域についての課題は、大きくないかもしれないが、熊本県としては県全体の発展を考える必要があるため、一部地域だけでなく、県下に波及して考えられると思う。ただ乱開発は発生しないようにしたいと思う。

将来的に大津町は、菊陽町や合志市のように80%近くが調整区域というわけではないため、適切に管理していくためにもしっかりとしたランドデザインを定着させる必要があると考える。

(会長)

ランドデザインではないが、最後に都市計画課から説明をしてもらう。

議題をその他へと移行する。

何かあれば、ご自由にお願する。

(委員)

美咲野小学校の4年生が、秋のはじめからずっと取り組んでいた「夢デザイン」として自分の大津町をどうしたいかについて、生徒に考えてもらいプレゼンを作成して発表会までの行程がこの前、終わったところであるが、その中の1人の児童の発案で銅銭塘の新パッケージをデザインするという案が出た。

商工会の青年部等の周りの大人が、その夢を叶えようと動き、3月15日開催の夜市での販売にこぎつけた。

「からいもくん」をモチーフにしたかわいらしいデザインで、浪花屋さん（銅銭塘

屋)にも協力している。そしたらその子も他の子どもたちもとても喜んで、考えるだけではなく、たくさんの大人が関わって販売できるという。夢デザインの実現が出来て非常に喜んでる。

人材育成のところで高校生の話が出ていたが、小学生や中学生でも、多くの子どもだからこそそのアイデアがあると「夢デザイン」の授業のときに感じた。

そこで自分の「夢デザイン」が叶うと自分のモチベーションも上がるし、また将来の企業に就職した際に向けた、心の成長につながると思った事例があるので紹介させてもらった。

(会長)

「夢デザイン」というのは授業の一環か。

(委員)

そう。総合的な学習の一つとなるが、昨年から、先生が起点になり、「子どもたち自身が物事について考える」ことを主題としたもの。授業のときに、地域の大人たちを学校に呼んで行っている。自分も何回か行ったが、今年は商工会の青年部にも声掛けして、子どもたちの考えていることにアドバイス等をしていた。授業のコマはそんなに多くは取らないが、最終的に夢デザインを発表することを、学年全体で取り組んでいる。

去年は、夢デザインとしてゴミ拾いの大会を開きたいと意見があり、一番ゴミを多く取った人に景品をあげる大会を開き、休日に美咲野の地域内で、大人がバックアップしながら実現させた。今年は銅銭塘のパッケージとスケールアップしたので、皆さんに知っていただきたいと思い、紹介させてもらった。

(会長)

それは、美咲小学校だけの取り組みか。

(委員)

そうだと思う。

(委員)

初めて聞いたため、町全体でなく地域での取り組みだと思う。

(会長)

小学校中学校と、より若い人に、いわゆる起業家教育というか自分たちで考えさせ、若い自分たちで何かできるっていう気持ちにするというのが大事と考える。

先日、町の学校教育課で話をしたが、そのあたりの活動を活発化させることが出来れば、町の課題や地域の課題の解決や、会社を起業してビジネスとして拡大させるということをしていくことも考えられ、それに補助金を出すこと等も考えられると思うので、またいろいろ教えてもらいたい。

(委員)

翔陽高校で小・中学校の先生方と話をした際に、合同授業の一環として、翔陽高校

の生徒が中学生や小学生の生徒と一緒に勉強会や芋掘り体験した話をされた。

そのときに小学生の生徒も喜んでおり、高校生の生徒も喜んで勉強を教えていたのと。また、交流した高校生の生徒の中に家庭のことで悩みのある生徒もいたが、小さい子どもと触れることによって、何か喜びを感じて、また学校に行きたくなったという意見も出てきたと聞いた。

そのような年齢に関係なく、学校同士が集まって生徒たちの交流をすることによって、今後大津町でその生徒たちが大きく成長したときに、より協力的な、強い大津町ができていくのではないかとこのことを3年ぐらい前から発言している。

こういう時だからこそ、商工、観光、企業、学校、行政区と様々な団体の代表者の方が集まって、大津町全体について話し合うべきだと思う

その中に町議の方や町長も加わり、層の厚い話ができたらいいと、何年も発言してきた。スケジュールが中々合わず、叶わなかったが、今回の選挙で町議会の顔ぶれも変わり、期待しているので、議会の方にも拝聴していきたい。

商工会長と話をすることで、常に今このときに動かなければならないと考えている。

だから2期目の町長にも頑張ってもらいたいと思うし、こういう会議をまめにし情報交換を密にしていってほしいと思う。

(委員)

資料内の地蔵祭補助金関係について、令和7年度の計画支援を継続して定着させるとなっている。

地蔵祭補助金は、今の補助金は最初のころの補助金と比較すると3倍程増加している。

地震の前に中央公園を会場としていた際は、警備もいらなかったため、様々な面で費用が少なく開催出来た。警備費用が掛かるが地蔵祭は昔から役場周辺での開催が定着しているため、役場周辺を会場とすることを続けて、この場所で子供たちに思い出を作ってもらいたい。

また、地蔵祭は23日・24日の2日間と開催日が固定されている。土日開催がいいとの声も上がってはいるが、開催日を固定することによって、県外におられる方から地蔵祭の開催日に都合を付きやすいようにしていきたい。

先ほどPTAの方からも意見があったように運営する側として、事故がないようにしていきたい。安全確保のための警備費は、費用が特に掛かるが、大津町は管理職の皆さんが自ら率先して見回りをされるなど、町全体で取り組んでおり、それがこの町のお祭りだろうという思うので、地域の方々、町、そして保護者の皆さん方と一緒にこのまちづくりを盛り上げていくことで、町内外からおいでになる方や海外からおいでになる人たちに祭りにいいイメージを持ってもらえるように今年もしていきたい。

(委員)

先般、本田技研熊本製作所と肥後大津駅の間を通る通勤バスがラッピングカーにな

っているニュースがあった。大津町をPRするようなカラーで、もう片面は本田技研熊本製作所の製品のピクトグラムが描かれている。非常に面白い取組だと感じた。

町の補助金が入っている事業と聞いたが、阿蘇熊本空港から肥後大津駅までの空港ライナーにも同じようにラッピングカーとして大津町のPRをしていけたら大津町の宣伝にもなり、ビジターセンターの利用者はもちろん、地域の方々にも空港ライナーの車がわかりやすくなるためいいと思う。

(委員)

空港ライナーについてラッピングをしようという話を県としている。

町マスコットの「からいもくん」もあるため、県の補助金をもらいながら進めていく。

また、空港ライナーの乗車時間が片道15分程のため、大津町のPRビデオ等流すことを検討していきたい。

(事務局)

商業観光課関連としまして、3月1日の広報の裏表紙に出ているが、東海大学と連携協定を結んでいる関係で、民間事業者とも連携し、大津町特産品であるからいものペーストを作ったスイーツが今度発売されます。

正式な発表は13日の予定ですが、15日に新たなお菓子として販売される予定になりますので、紹介します。

#### 4 その他

大津町都市整備部都市計画課長から都市計画の現状の説明を行った。

#### 5 閉会